

令和4年度 財政状況資料集

総括表（市町村）

都道府県名	佐賀県	市町村類型	IV-2	指定団体等の指定状況			区分		令和4年度(千円)	令和3年度(千円)	区分		令和4年度(千円・%)	令和3年度(千円・%)	
				財政健全化等			歳入総額	歳出総額			実質収支比率	経常収支比率			
市町村名	吉野ヶ里町	地方交付税種地	2-3	財源超過		×	歳入総額	10,530,965	10,739,901	実質収支比率	3.9	7.6			
				財源超過		×	歳出総額	10,203,119	10,322,710	経常収支比率	89.8	84.4			
人口	令和2年国調(人)	16,323	産業構造(※5)	首都		×	歳入歳出差引	327,846	417,191	(※1)	(91.2)	(87.8)			
	平成27年国調(人)	16,411		近畿		×	翌年度に繰越すべき財源	131,676	29,635	標準財政規模	5,034,669	5,122,623			
住民基本台帳人口(※7)	増減率(%)	-0.5	区分	中部		×	実質収支	196,170	387,556	財政力指数	0.52	0.52			
	令和05.01.01(人)	16,228		低開発		○	単年度収支	-191,386	335,527	公債費負担比率	14.5	14.7			
面積(km ²)	うち日本人(人)	16,030	第1次	過疎		×	積立金	8,232	83,085	健全化判断比率					
	増減率(%)	-0.0		うち日本人(人)	16,234	4.8	5.1	繰上償還金	0	0	実質赤字比率	-	-		
人口密度(人/km ²)	うち日本人(%)	16,049	第2次	山振		×	積立金取崩し額	0	0	連結実質赤字比率	-	-			
	増減率(%)	-0.1		2,175	2,221	指数表選定		○	実質単年度収支	-183,154	418,612	実質公債費比率	8.9	9.6	
世帯数(世帯)	うち日本人(%)	16,234	第3次	低開発		○	標準税収入額等	2,877,562	2,645,723	得実負担比率	-	-			
	増減率(%)	-0.1		5,429	5,189	基準財政収入額	2,275,153	2,094,248	基準財政需要額	4,353,297	4,283,485	資金不足比率(※4)			
職員状況(※8)				68.0	66.5		標準税収入額等	2,877,562	2,645,723	標準財政収入額等	2,877,562	2,645,723			
				68.0	66.5		経常経費充当一般財源等	4,594,639	4,478,469	経常経費充当一般財源等	4,594,639	4,478,469			
				68.0	66.5		歳入一般財源等	5,863,027	5,940,348	歳入一般財源等	5,863,027	5,940,348			
特別職等	区分	定数	1人あたり平均給料月額(百円)	一般職員等(※6)	区分	職員数(人)	給料月額(百円)	1人あたり平均給料月額(百円)	地方債現在高	7,711,868	8,399,242				
	市区町村長	1	7,500	一般職員等(※6)	一般職員	132	400,224	3,032	うち公的資金	6,848,348	7,475,905				
	副市区町村長	1	6,000		うち消防職員	-	-	-	地方債現在高(臨時財政対策債除き)	4,318,692	4,750,690				
	教育長	1	5,250		うち技能労務職員	-	-	-	債務負担行為額(支出予定額)	663,497	328,718				
	議会議長	1	3,100		教育公務員	6	20,074	3,346	収益事業収入	-	-				
	議会副議長	1	2,500		臨時職員	2	*	*	土地開発基金現在高	321,274	319,665				
	議会議員	10	2,330		合計	140	425,934	3,042	財政調整基金	2,605,203	2,402,972				
						ラスバイレズ指数				97.8					
										積立金現在高	1,133,376	1,129,794			
										減債基金	1,133,376	1,129,794			
									その他特定目的基金	6,187,625	5,154,218				
一般会計等の一覧	事業会計の一覧	公営企業(法適)の一覧	公営企業(法非適)の一覧	関係する一部事務組合等一覧	地方公社・第三セクター等一覧								(※3)		
項番	会計名	項番	会計名	項番	組合等名	項番	組合等名	項番	団体名						
(1) 一般会計		(2) 国民健康保険特別会計		(4) 簡易水道特別会計		(7) 佐賀中部広域連合(一般会計)									
		(3) 後期高齢者医療特別会計		(5) 下水道特別会計		(8) 佐賀中部広域連合(介護特別会計)									
				(6) 工業用地造成事業特別会計		(9) 佐賀県後期高齢者医療広域連合(一般会計)									
						(10) 佐賀県後期高齢者医療広域連合(後期高齢者医療特別会計)									
						(11) 佐賀東部水道企業団(用水供給事業会計)									
						(12) 佐賀東部水道企業団(水道事業会計)									
						(13) 脊振共同塵芥処理組合									
						(14) 三神地区環境事務組合									
						(15) 佐賀県市町総合事務組合(一般会計)									
						(16) 佐賀県市町総合事務組合(交通災害事業特別会計)									

(注釈) ※1: 経常収支比率の()内の数値は、「減収補填債(特例分)」「猶予特例債」及び「臨時財政対策債」を除いて算出したものである。
 ※2: 各会計の一覧は主な会計(10会計まで)を記載している。
 ※3: 地方公共団体が損失補填等を行っている出資法人で、健全化法の算出対象となっている団体については、「地方公社・第三セクター等」の団体名に○印を付与している。
 ※4: 資金不足比率欄には、資金が不足している会計のみ記載している。
 ※5: 産業構造の比率は、分母を就業人口総数とし、分類不能の産業を除いて算出。
 ※6: 個人情報保護の観点から、対象となる職員数が1人又は2人の場合は、「給料月額(百円)」と「1人あたり給料月額(百円)」を「アスタリスク(*)」としている。(その他、数値のない欄については、すべてハイフン(-)としている)。
 ※7: 人口については、調査対象年度の1月1日現在の住民基本台帳に登録されている人口に基づいている。
 ※8: 職員の状況については、令和4年度地方公務員給与実態調査に基づいている。

(1) 普通会計の状況 (市町村)

歳入の状況 (単位 千円・%)				
区分	決算額	構成比	経常一般財源等	構成比
地方税	2,298,923	21.8	2,298,923	45.6
地方譲与税	58,194	0.6	58,194	1.2
利子割交付金	813	0.0	813	0.0
配当割交付金	6,572	0.1	6,572	0.1
株式等譲渡所得割交付金	5,635	0.1	5,635	0.1
分離課税所得割交付金	-	-	-	-
地方消費税交付金	409,038	3.9	409,038	8.1
ゴルフ場利用税交付金	-	-	-	-
特別地方消費税交付金	-	-	-	-
自動車取得税交付金	107	0.0	107	0.0
軽油引取税交付金	-	-	-	-
自動車税環境性能割交付金	4,139	0.0	4,139	0.1
法人事業税交付金	43,077	0.4	43,077	0.9
地方特例交付金等	22,318	0.2	22,318	0.4
個人住民税減収補填特例交付金	22,184	0.2	22,184	0.4
新型コロナウイルス感染症対策地方税減収補填特例交付金	134	0.0	134	0.0
地方交付税	2,288,310	21.7	2,077,926	41.2
普通交付税	2,077,926	19.7	2,077,926	41.2
特別交付税	210,384	2.0	-	-
震災復興特別交付税	-	-	-	-
(一般財源計)	5,137,126	48.8	4,926,742	97.8
交通安全対策特別交付金	2,355	0.0	2,355	0.0
分担金・負担金	99,039	0.9	48	0.0
使用料	134,712	1.3	5,294	0.1
手数料	31,839	0.3	-	-
国庫支出金	1,427,063	13.6	-	-
国有提供交付金(特別区財調交付金)	51,377	0.5	51,377	1.0
都道府県支出金	716,048	6.8	-	-
財産収入	53,668	0.5	504	0.0
寄附金	2,185,442	20.8	-	-
繰入金	147,888	1.4	-	-
繰越金	223,191	2.1	-	-
諸収入	137,836	1.3	51,889	1.0
地方債	183,381	1.7	-	-
うち減収補填債(特例分)	-	-	-	-
うち臨時財政対策債	79,181	0.8	-	-
歳入合計	10,530,965	100.0	5,038,209	100.0

地方税の状況 (単位 千円・%)				
区分	収入済額	構成比	超過課税分	
普通税	2,287,990	99.5	-	-
法定普通税	2,287,990	99.5	-	-
市町村民税	985,648	42.9	-	-
個人均等割	29,392	1.3	-	-
所得割	748,861	32.6	-	-
法人均等割	60,001	2.6	-	-
法人税割	147,394	6.4	-	-
固定資産税	1,101,835	47.9	-	-
うち純固定資産税	1,064,762	46.3	-	-
軽自動車税	63,700	2.8	-	-
市町村たばこ税	136,807	6.0	-	-
鉱産税	-	-	-	-
特別土地保有税	-	-	-	-
法定外普通税	-	-	-	-
目的税	10,933	0.5	-	-
法定目的税	10,933	0.5	-	-
入湯税	10,933	0.5	-	-
事業所税	-	-	-	-
都市計画税	-	-	-	-
水利地益税等	-	-	-	-
法定外目的税	-	-	-	-
旧法による税	-	-	-	-
合計	2,298,923	100.0	-	-

区分		令和4年度	令和3年度
徴収率 (%)	現	99.8	99.3
	計	99.7	99.2
市町村民税	現	99.7	99.2
	計	99.8	99.3

公営事業等への繰出		国民健康保険事業会計の状況	
合計	901,220	実質収支	13,937
下水道	391,167	再差引収支	9,025
上水道	1,594	加入世帯数(世帯)	1,673
簡易水道	1,324	被保険者数(人)	2,533
宅地造成	847	被保険者	104
国民健康保険	104,046	1人当り	
その他	402,242	保険料(料)収入額	462
		国庫支出金	
		保険給付費	

歳出の状況 (単位 千円・%)				
区分	決算額 (A)	構成比	(A)のうち普通建設事業費	(A)のうち充当一般財源等
議会費	80,309	0.8	-	80,309
総務費	3,159,712	31.0	4,961	839,732
民生費	2,538,702	24.9	22,011	1,136,698
衛生費	752,503	7.4	1,172	534,460
労働費	10,051	0.1	-	51
農林水産業費	277,735	2.7	51,626	185,580
商工費	390,928	3.8	25,814	349,048
土木費	792,494	7.8	295,125	558,421
消防費	330,776	3.2	1,959	318,446
教育費	823,903	8.1	21,742	685,103
災害復旧費	112,666	1.1	-	50
公債費	912,066	8.9	-	847,283
諸支出金	21,274	0.2	21,274	-
前年度繰上充用金	-	-	-	-
歳出合計	10,203,119	100.0	445,684	5,535,181

性質別歳出の状況 (単位 千円・%)					
区分	決算額	構成比	充当一般財源等	経常経費充当一般財源等	経常収支比率
義務的経費計	3,955,505	38.8	2,475,438	2,462,550	48.1
人件費	1,325,004	13.0	1,182,176	1,172,679	22.9
うち職員給	823,254	8.1	725,114	-	-
扶助費	1,718,435	16.8	445,979	442,588	8.6
公債費	912,066	8.9	847,283	847,283	16.6
元利償還金	912,066	8.9	847,283	847,283	16.6
内 うち元金	870,755	8.5	811,401	811,401	15.9
内 うち利息	41,311	0.4	35,882	35,882	0.7
一時借入金利息	-	-	-	-	-
その他の経費	5,689,264	55.8	2,893,836	2,132,089	41.7
物件費	2,499,759	24.5	1,133,986	722,293	14.1
維持補修費	39,294	0.4	26,360	25,512	0.5
補助費等	1,027,329	10.1	870,515	723,880	14.1
うち一部事務組合負担金	562,978	5.5	533,374	477,699	9.3
繰出金	899,626	8.8	808,157	660,241	12.9
積立金	1,193,093	11.7	54,655	-	-
投資・出資金・貸付金	30,163	0.3	163	163	0.0
前年度繰上充用金	-	-	-	-	-
投資的経費計	558,350	5.5	165,907	-	-
うち人件費	6,800	0.1	6,799	-	-
普通建設事業費	445,684	4.4	165,857	-	-
うち補助	202,925	2.0	43,068	-	-
うち単独	233,767	2.3	118,172	-	-
災害復旧事業費	112,666	1.1	50	-	-
失業対策事業費	-	-	-	-	-
歳出合計	10,203,119	100.0	5,535,181	-	-

(注釈)
 普通建設事業費の補助事業費には受託事業費のうちの補助事業費を含み、
 単独事業費には同級他団体施行事業負担金及び受託事業費のうちの単独事業費を含む。

(2)各会計、関係団体の財政状況及び健全化判断比率（市町村）

令和4年度 佐賀県吉野ヶ里町

一般会計等の財政状況(単位:百万円)

会計名	歳入	歳出	形式収支	実質収支	他会計等からの繰入金	地方債現在高	備考
1 一般会計	10,531	10,203	328	196	148	7,712	
2							
3							
4							
5							
6							
7							
8							
9							
10							
11							
12							
13							
14							
15							
16							
17							
18							
19							
20							
21							
22							
23							
24							
25							
26							
27							
28							
29							
30							
31							
32							
33							
34							
35							
36							
37							
38							
39							
40							
41							
42							
43							
44							
45							
46							
47							
48							
49							
50							
51							
52							
53							
54							
55							
56							
57							
58							
59							
60							
61							
62							
63							
64							
65							
66							
67							
68							
69							
70							
71							
72							
73							
74							
75							
76							
77							
78							
79							
80							
81							
82							
83							
84							
85							
86							
87							
88							
89							
90							
91							
92							
93							
94							
95							
96							
97							
98							
99							
100							
101							
102							
103							
104							
105							
106							
107							
108							
109							
110							
111							
112							
113							
114							
115							
116							
117							
118							
119							
120							
121							
122							
123							
124							
125							
126							
127							
128							
129							
130							
131							
132							
133							
134							
135							
136							
137							
138							
139							
140							
141							
142							
143							
144							
145							
146							
147							
148							
149							
150							
151							
152							
153							
154							
155							
156							
157							
158							
159							
160							
161							
162							
163							
164							
165							
166							
167							
168							
169							
170							
171							
172							
173							
174							
175							
176							
177							
178							
179							
180							
181							
182							
183							
184							
185							
186							
187							
188							
189							
190							
191							
192							
193							
194							
195							
196							
197							
198							
199							
200							
201							
202							
203							
204							
205							
206							
207							
208							
209							
210							
211							
212							
213							
214							
215							
216							
217							
218							
219							
220							
221							
222							
223							
224							
225							
226							
227							
228							
229							
230							
231							
232							
233							
234							
235							
236							
237							
238							
239							
240							
241							
242							
243							
244							
245							
246							
247							
248							
249							
250							
251							
252							
253							
254							
255							
256							
257							
258							
259							
260							
261							
262							
263							
264							
265							
266							
267							
268							
269							
270							
271							
272							
273							
274							
275							
276							
277							
278							
279							
280							
281							
282							
283							
284							
285							
286							
287							
288							
289							
290							
291							
292							
293							
294							
295							
296							
297							
298							

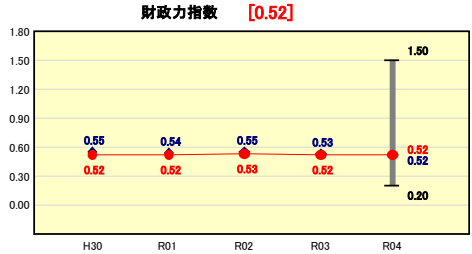
(3) 市町村財政比較分析表(普通会計決算)

人口	16,228人	(R5.1.1現在)	実質赤字比率	-%
うち日本人	16,030人	(R5.1.1現在)	連結実質赤字比率	-%
面積	43.99km ²		実質公債費比率	8.9%
歳入総額	10,530,965千円		将来負担比率	-%
歳出総額	10,203,119千円		市町村類型	H30 IV-2 R01 IV-2 R02 IV-2
実質収支	196,170千円		(年度毎)	R03 IV-2 R04 IV-2
標準財政規模	5,034,669千円			
地方債現在高	7,711,868千円			



※市町村類型とは、人口および産業構造等により全国の市町村を35のグループに分類したものである。当該団体と同じグループに属する団体を類似団体と言う。
 ※令和5年度中に市町村合併した団体で、合併前の団体ごとの決算に基づく実質公債費比率及び将来負担比率を算出していない団体については、グラフを表記しない。
 ※充当可能財源等が将来負担額を上回っている団体については、将来負担比率のグラフを表記しない。
 ※「人件費・物件費等の状況」の決算額は、人件費、物件費及び維持補修費の合計である。ただし、人件費には事業費支弁人件費を含み、退職金は含まない。
 ※人口については、各調査対象年度の1月1日現在の住民基本台帳に登録されている人口に基づいている。
 ※類似団体内順位、全国平均、各都道府県平均は、令和4年度決算の状況である。また類似団体が存在しない場合、類似団体内順位を表示しない。
 ※「定員管理の状況」の「人口1,000人当たり職員数」の算出に用いる職員数及び「給与水準(国との比較)」の「ラスパイレス指数」については、各調査対象年度の地方公務員給与実態調査に基づいている。

財政力

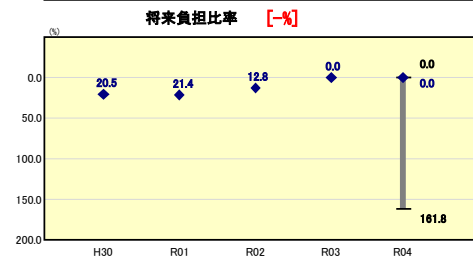


類似団体内順位 23/59 全国平均 0.49 佐賀県平均 0.50

財政力指数の分析欄

基準財政収入額、基準財政需要額が共に増加したことにより単年度指数は前年度より0.034ポイント上昇しているが、3ヶ年平均の財政力指数については前年度から増減なく横ばいとなった。
 類似団体の平均と同数値となっているものの、今後より一層の行政改革を推進し、企業の誘致活動や定住促進事業等による税収の確保を図り、財政力の強化に努める。

将来負担の状況

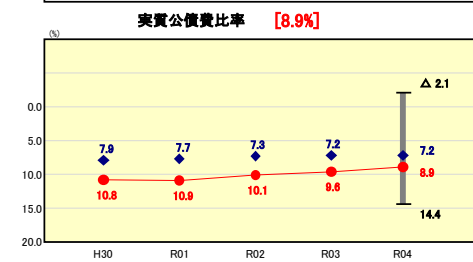


類似団体内順位 1/59 全国平均 8.8 佐賀県平均 0.0

将来負担比率の分析欄

充当可能財源等控除後の将来負担額は今年度もマイナスのため、将来負担比率は「算定なし」となっている。新庁舎建設事業やごみ処理施設建設事業、既存の施設の解体撤去等により比率の上昇が懸念されるため、当該事業に限らず実施事業の適正化を図り、財政の健全化に努める。

公債費負担の状況

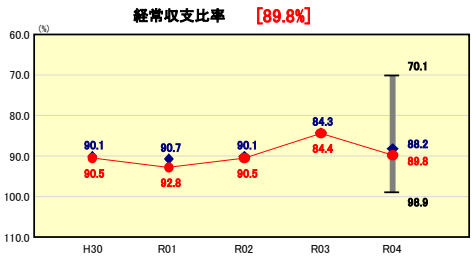


類似団体内順位 42/59 全国平均 6.5 佐賀県平均 7.0

実質公債費比率の分析欄

3ヶ年平均の実質公債比率は0.7ポイント減少し8.9%となっているが、依然として類似団体平均値を下回っている状況にあるため楽観視はできない。建設物価の高騰中、新庁舎建設をはじめとする大規模建設事業や個別施設計画に基づく公共施設の改修が控えているため、有利な起債の選択や繰上償還の活用等により指標の抑制に努める。

財政構造の弾力性

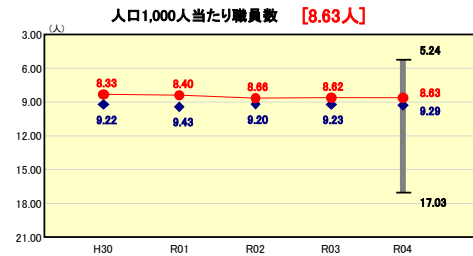


類似団体内順位 34/59 全国平均 92.2 佐賀県平均 90.5

経常収支比率の分析欄

経常収支比率は前年度から5.4ポイント後退し89.8%となっているが、前年の数値好転は一過性のものであって例年並みの数値に落ち着いたと捉えている。
 公債費や人件費、物件費等の経常経費削減に努める一方、町税や住宅使用料の徴収強化等による歳入の確保を図る。

定員管理の状況

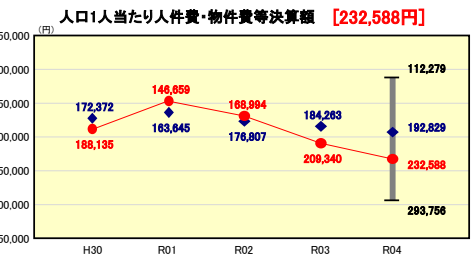


類似団体内順位 28/59 全国平均 8.25 佐賀県平均 7.83

人口1,000人当たり職員数の分析欄

定年前退職による突発的な職員減があり、採用によって職員数を確保できていないため前年度から0.01ポイント上昇している。
 今後も適切な定員管理に努める。

人件費・物件費等の状況

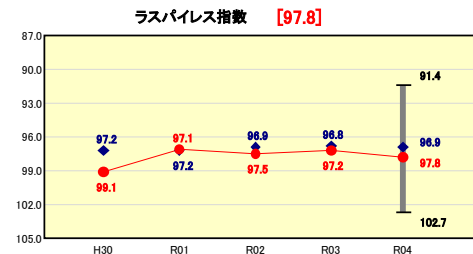


類似団体内順位 44/59 全国平均 180,081 佐賀県平均 170,298

人口1人当たり人件費・物件費等決算額の分析欄

ふるさと納税の増収に伴い、昨年度と同様に返礼品や委託料等が増加したことに加え、地方創生臨時交付金を活用した事業における物件費の増加により、前年度に比べて23,248円の増となり類似団体平均を39,759円下回る232,588円となっている。

給与水準 (国との比較)



類似団体内順位 40/59 全国市平均 98.7 全国町村平均 96.3

ラスパイレス指数の分析欄

社会人枠採用者の退職や育休者復職時調整の実施及び階層間変動により、前年度97.2に対し今年度は97.8となっている。引き続き国の給与水準との均衡を図りながら給与の適正化に努める。

(4)-1 市町村経常経費分析表(普通会計決算)

令和4年度

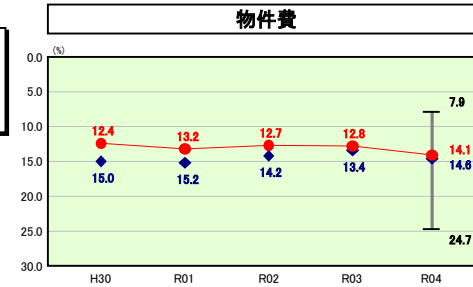
佐賀県吉野ヶ里町

経常収支比率の分析

人口	16,228	人(R5.1.1現在)	実収赤字比率	-	%
うち日本人	16,030	人(R5.1.1現在)	連結実収赤字比率	-	%
面積	43.99	km ²	実収公債費比率	8.9	%
歳入総額	10,530,965	千円	将来負債比率	-	%
歳出総額	10,203,119	千円	市町村類型	H30 IV-2 R01 IV-2 R02 IV-2	
実収収支	196,170	千円	(年度毎)	R03 IV-2 R04 IV-2	
標準財政規模	5,034,669	千円			
地方債現在高	7,711,868	千円			



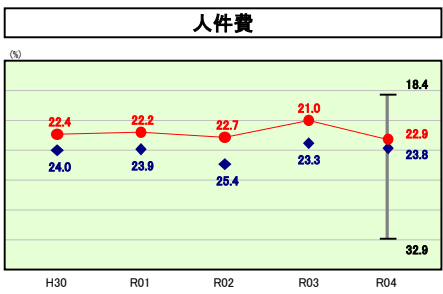
※ 市町村類型とは、人口および産業構造等により全国の市町村を35のグループに分類したものである。当該団体と同じグループに属する団体を類似団体と言う。
 ※ 人口については、各調査対象年度の1月1日現在の住民基本台帳に登録されている人口に基づいている。
 ※ 類似団体内順位、全国平均、各都道府県平均は、令和4年度決算の状況である。また類似団体が存在しない場合、類似団体内順位を表示しない。



類似団体内順位 23/59 全国平均 14.9 佐賀県平均 12.6

物件費の分析欄

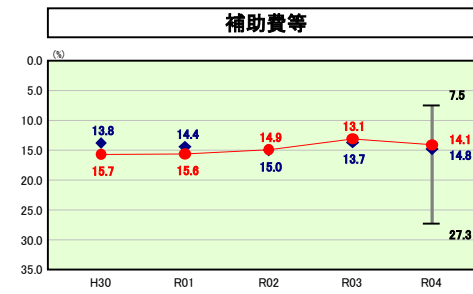
ふるさと納税の増収に伴う寄附礼品の増や体育施設の指定管理料の増により前年度に比べ1.3ポイント上昇している。システム使用料や各種リース料も増加傾向にあるため、業務の改善・効率化を図り経費の抑制に努める。



類似団体内順位 24/59 全国平均 25.9 佐賀県平均 24.1

人件費の分析欄

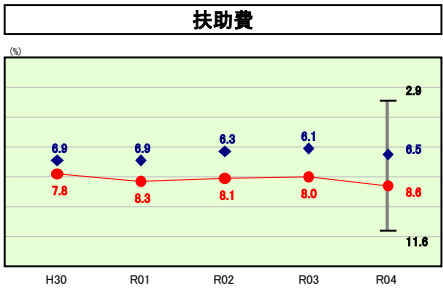
一般職給与の増により、人件費に要する経常収支比率は前年度を1.9ポイント下回る22.9%となった。類似団体平均は下回っているものの、人件費は増加傾向にあるため引き続き適切な定員の管理に努める。



類似団体内順位 29/59 全国平均 10.5 佐賀県平均 12.4

補助費等の分析欄

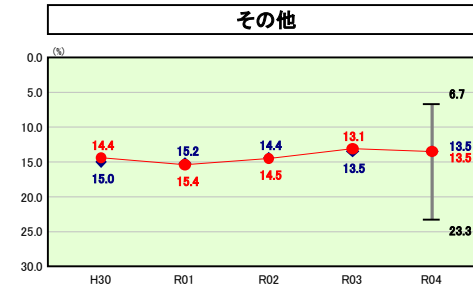
一部事務組合の運営に係る負担金の増により前年度より1.0ポイント増加し14.1%となった。今後も組合への運営費負担金等により増加が見込まれるため一部事務組合の運営状況等を注視し、補助費等の抑制に努める。



類似団体内順位 46/59 全国平均 12.5 佐賀県平均 11.1

扶助費の分析欄

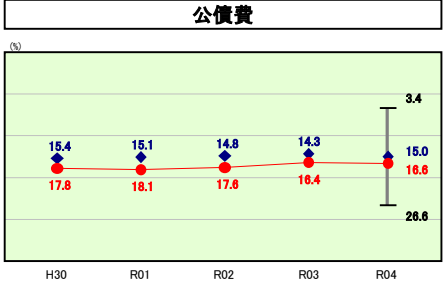
子育て世帯への臨時特別給付金給付費の減により扶助費は減少しているものの、障害者福祉等の経常一般財源を充当する歳出が増加したことから、前年度に比べて0.6ポイント増加。県内平均は下回っているものの、依然として類似団体平均を上回る数値となっているため、制度の改正等による給付費の動向に注視するとともに単独扶助や独自加算等を見直すなど経費の抑制に努める。



類似団体内順位 29/59 全国平均 12.4 佐賀県平均 13.2

その他の分析欄

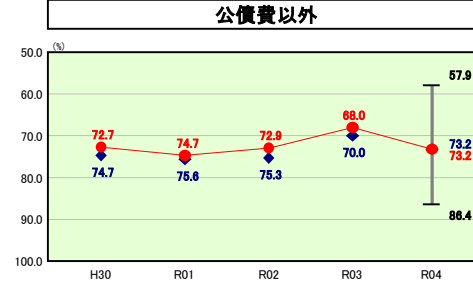
温浴施設や町営住宅、保育園などの公立施設の老朽化等による維持補修費の増加に加え、下水道特別会計への繰出金も増加したことによりその他の経常一般財源充当経費は増加。前年度に比べ0.4ポイント上昇した。今後、維持補修費等の抑制に加え住宅使用料等の特定財源確保に努める。



類似団体内順位 43/59 全国平均 16.0 佐賀県平均 17.1

公債費の分析欄

前年度に比べ0.2ポイント増加し16.6%となった。償還額の大部分は普通交付税措置対象であるが、平成27年度以降、類似団体を毎年上回っているため、元金据置期間や償還期間の短縮による借入利子の抑制、民間資金等の繰上償還などに取組み公債費抑制に努める。



類似団体内順位 26/59 全国平均 76.2 佐賀県平均 73.4

公債費以外の分析欄

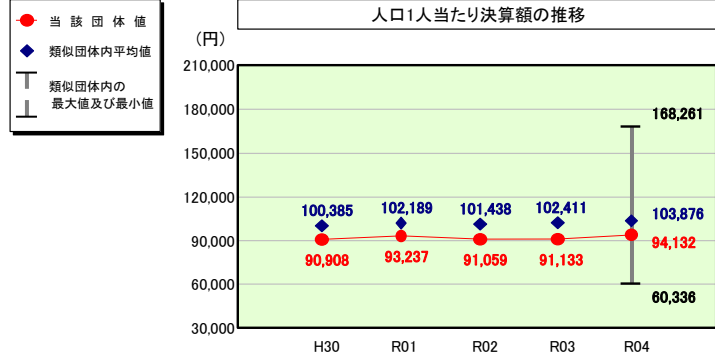
公債費を除く経常一般財源充当経費は全て増加。地方交付税をはじめとした経常収入の減もあり、前年度に比べて5.2ポイント上昇し73.2%となった。類似団体平均値と同じ数値であるものの、全ての経費が増加しているため、今後は行政経費の効率的な運営を図り、経費の節減に努める。

(4)-2 市町村経常経費分析表(普通会計決算)

令和4年度

佐賀県吉野ヶ里町

人件費及び人件費に準ずる費用の分析



人件費及び人件費に準ずる費用

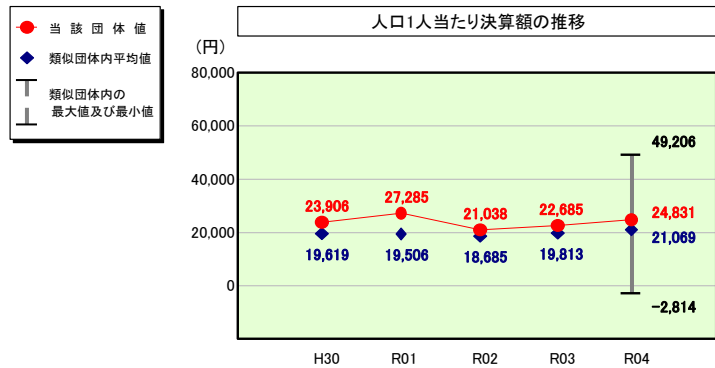
	当該団体決算額 (千円)	人口1人当たり決算額		
		当該団体 (円)	類似団体平均 (円)	対比 (%)
人件費	1,325,004	81,649	91,991	▲ 11.2
一部事務組合負担金(補助費等)	253,766	15,638	12,405	26.1
公営企業(法適)等に対する繰出し(補助費等)	-	-	395	-
公営企業(法適)等に対する繰出し(投資及び出資金・貸付金)	-	-	19	-
公営企業(法非適)等に対する繰出し(繰出金)	38,425	2,368	3,751	▲ 36.9
事業費支弁に係る職員の人件費(投資的経費)	6,800	419	1,672	▲ 74.9
▲退職金	▲ 96,419	▲ 5,942	▲ 6,358	▲ 6.5
合計	1,527,576	94,132	103,876	▲ 9.4

参考

	当該団体	類似団体平均	対比(差引)
人口1,000人当たり職員数(人)	8.63	9.29	▲ 0.66
ラスパイレズ指数	97.8	96.9	0.9

(注) 人口については、各調査対象年度の1月1日現在の住民基本台帳に登録されている人口に基づいている。

公債費及び公債費に準ずる費用の分析

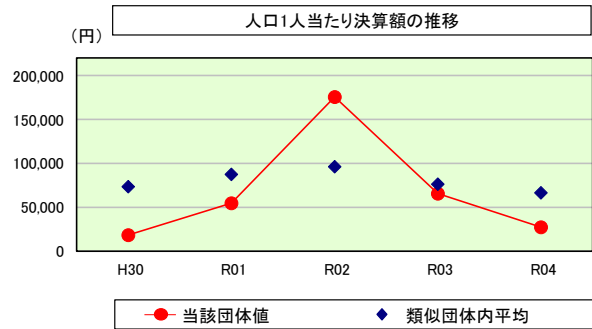


公債費及び公債費に準ずる費用(実質公債費比率の構成要素)

	当該団体決算額 (千円)	人口1人当たり決算額		
		当該団体 (円)	類似団体平均 (円)	対比 (%)
元利償還金の額 (繰上償還額等を除く)	912,066	56,203	51,927	8.2
積立不足額を考慮して算定した額	-	-	-	-
満期一括償還地方債の一年当たりの元金償還金に相当するもの (年度割相当額)	-	-	-	-
公営企業に要する経費の財源とする地方債の償還の財源に 充てたと認められる繰入金	319,055	19,661	15,337	28.2
一部事務組合等の起こした地方債に充てたと認められる 補助金又は負担金	43,576	2,685	2,347	14.4
公債費に準ずる債務負担行為に係るもの	9,935	612	463	32.2
一時借入金利子 (同一団体における会計間の現金運用に係る利子は除く)	-	-	1	-
▲特定財源の額	▲ 64,783	▲ 3,992	▲ 3,326	20.0
▲地方債に係る元利償還金及び準元利償還金に要する経費として 普通交付税の額の算定に用いる基準財政需要額に算入された額	▲ 816,887	▲ 50,338	▲ 45,680	10.2
合計	402,962	24,831	21,069	17.9

※令和5年度中に市町村合併した団体で、合併前の団体ごとの決算に基づく実質公債費比率を算出していない団体については、グラフを表記しない。

(参考) 普通建設事業費の分析



普通建設事業費

	当該団体決算額 (千円)	人口1人当たり決算額				
		当該団体(円)	増減率(%) (A)	類似団体平均(円)	増減率(%) (B)	(A)-(B)
H30	298,740	18,440	▲ 78.6	73,475	9.1	▲ 87.7
	うち単独分	175,776	▲ 75.5	43,072	31.1	▲ 106.6
R01	175,776	10,850	196.4	87,464	19.0	177.4
	うち単独分	884,817	284.1	47,479	10.2	273.9
R02	884,817	54,662	221.2	96,248	10.0	211.2
	うち単独分	2,334,645	246.4	55,768	17.5	228.9
R03	445,684	27,464	▲ 62.7	76,413	▲ 20.6	▲ 42.1
	うち単独分	477,184	▲ 79.6	39,658	▲ 28.9	▲ 50.7
R04	233,767	14,405	▲ 58.1	66,481	▲ 13.0	▲ 45.1
	うち単独分	233,767	▲ 51.0	36,120	▲ 8.9	▲ 42.1
過去5年間平均	1,106,568	68,345	43.6	80,016	0.9	42.7
	うち単独分	779,207	64.9	44,419	4.2	60.7

(5)市町村性質別歳出決算分析表(住民一人当たりのコスト)

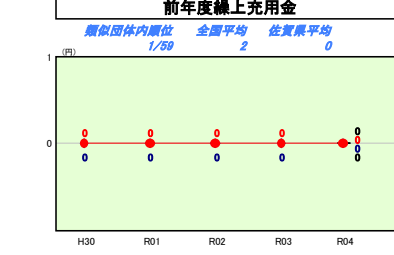
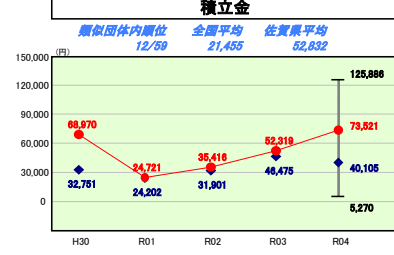
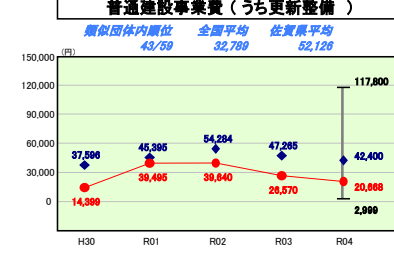
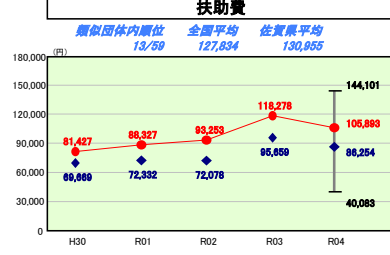
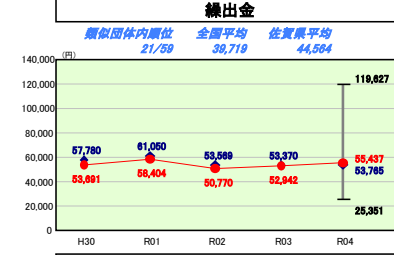
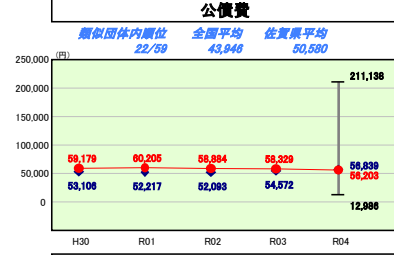
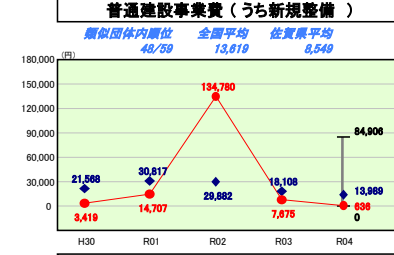
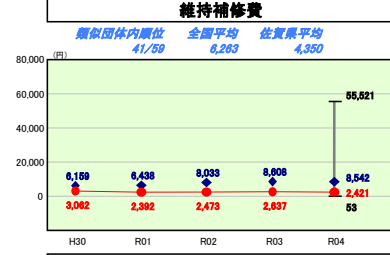
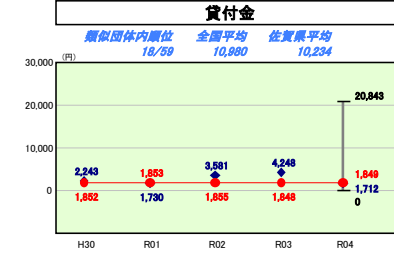
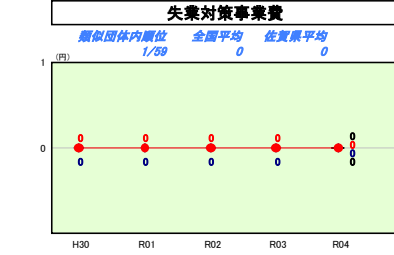
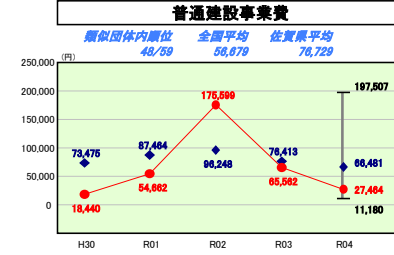
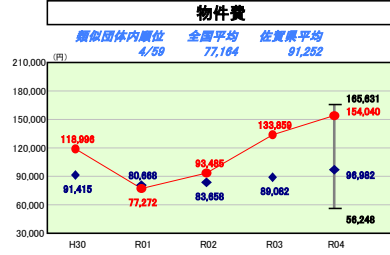
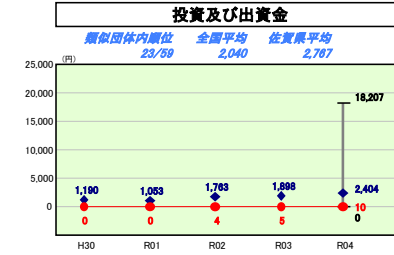
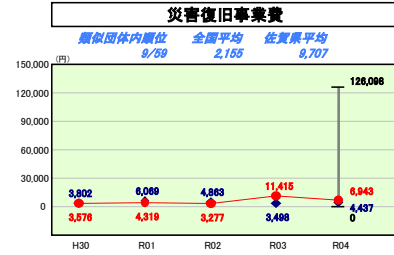
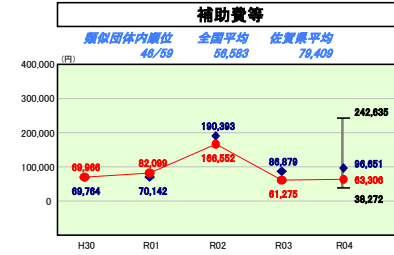
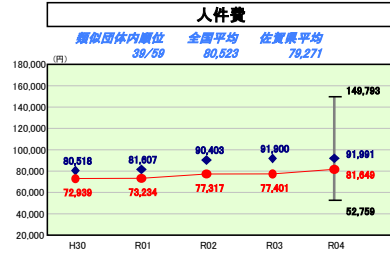
令和4年度

佐賀県吉野ヶ里町

人口	16,228人(R5.1.1現在)	実収赤字比率	-	96
うち日本人	16,030人(R5.1.1現在)	道給実収赤字比率	-	96
面積	43.89km ²	実収公債費比率	8.0	96
歳入総額	10,630,965千円	将来負担比率	-	96
歳出総額	10,203,119千円	市町村類型	H30 IV-2 R01 IV-2 R02 IV-2	
実収収支	196,170千円	(年度毎)	R03 IV-2 R04 IV-2	
標準財政規模	5,034,669千円			
地方債現在高	7,711,868千円			

● 当該団体値
◆ 類似団体内平均値
┌ 類似団体内の最大値及び最小値

※ 市町村類型とは、人口および産業構造等により全国の市町村を35のグループに分類したものである。当該団体と同じグループに属する団体を類似団体と言う。
※ 人口については、各調査対象年度の1月1日現在の住民基本台帳に登録されている人口に基づいている。
※ 類似団体内順位、全国平均、各都道府県平均は、令和4年度決算の状況である。また類似団体が存在しない場合、類似団体内順位を表示しない。



性質別歳出の分析値

- 歳出決算総額は住民一人当たり628,735円(△7,135円)となっている。
- 物件費、扶助費、災害復旧事業費、積立金、貸付金、繰出金が類似団体平均値を上回っている。
- ふるさと納税の増取に伴い、ふるさと応援寄付返礼品等の物件費、ふるさと応援寄付金基金への積立金は増加し続けている。
- 普通建設事業費のうち新規整備に関しては、文化体育館整備事業の完了に伴い減少の一途をたどっている。

(6)市町村目的別歳出決算分析表(住民一人当たりのコスト)

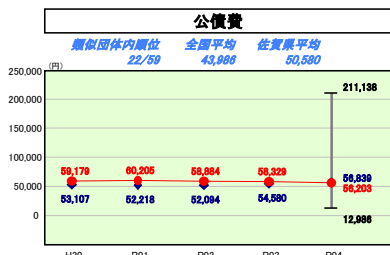
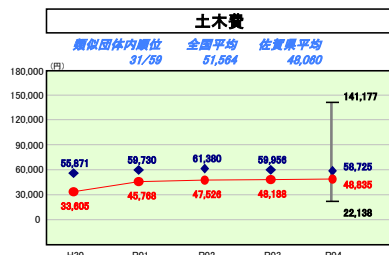
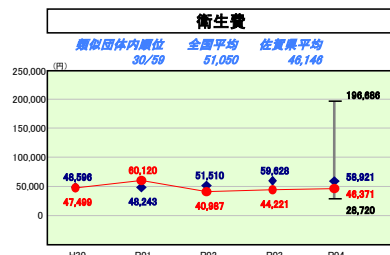
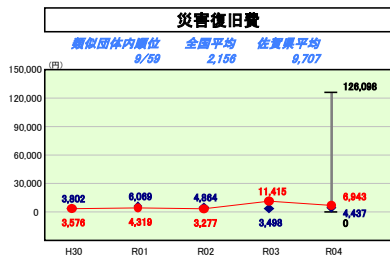
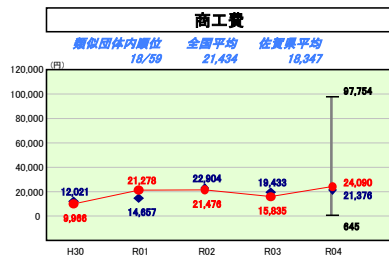
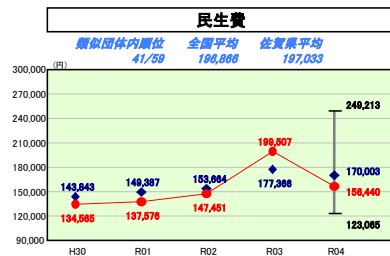
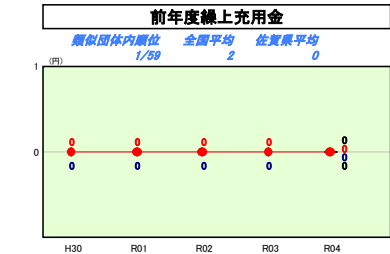
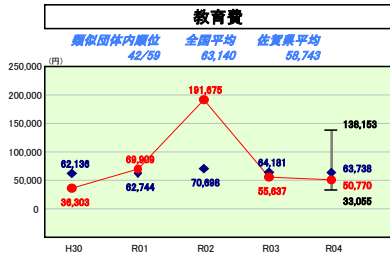
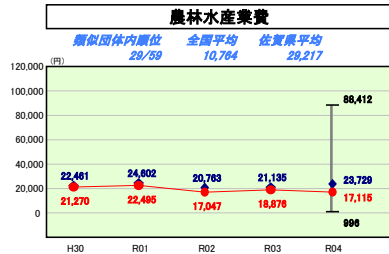
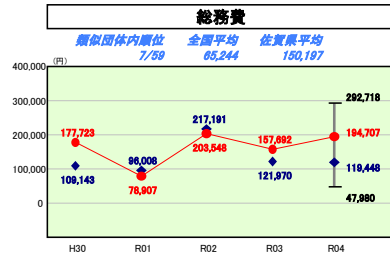
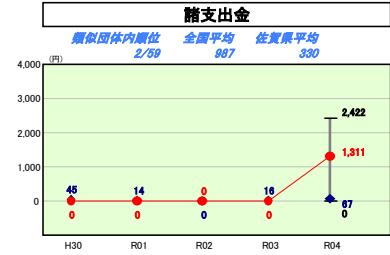
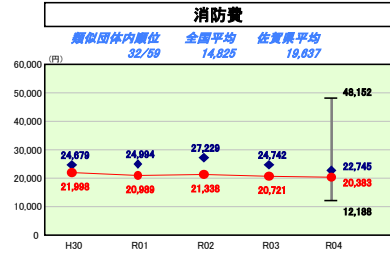
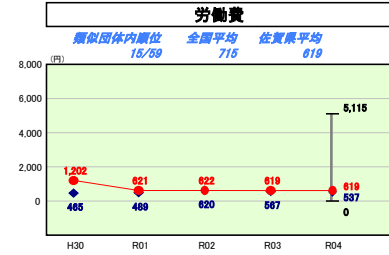
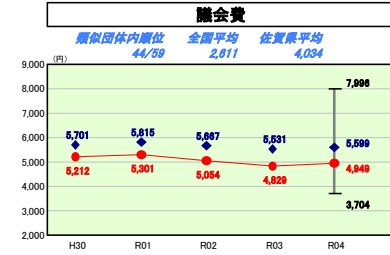
令和4年度

佐賀県吉野ヶ里町

人口	16,228人 (R5.1.1現在)	実赤字比率	-	96
うち日本人	16,030人 (R5.1.1現在)	道庁実赤字比率	-	96
面積	43.89km ²	実費公債費比率	8.0	96
歳入総額	10,630,965千円	将来負担比率	-	96
歳出総額	10,203,119千円	市町村類型	H30 IV-2 R01 IV-2 R02 IV-2	
実費収支	196,170千円	(年度毎)	R03 IV-2 R04 IV-2	
標準財政規模	5,034,669千円			
地方債現在高	7,711,868千円			



※ 市町村類型とは、人口および産業構造等により全国の市町村を35のグループに分類したものである。当該団体と同じグループに属する団体を類似団体と言う。
 ※ 人口については、各調査対象年度の1月1日現在の住民基本台帳に記載されている人口に基づいている。
 ※ 類似団体内順位、全国平均、各都道府県平均は、令和4年度決算の状況である。また類似団体が存在しない場合、類似団体内順位を表示しない。



目的別歳出の分析概

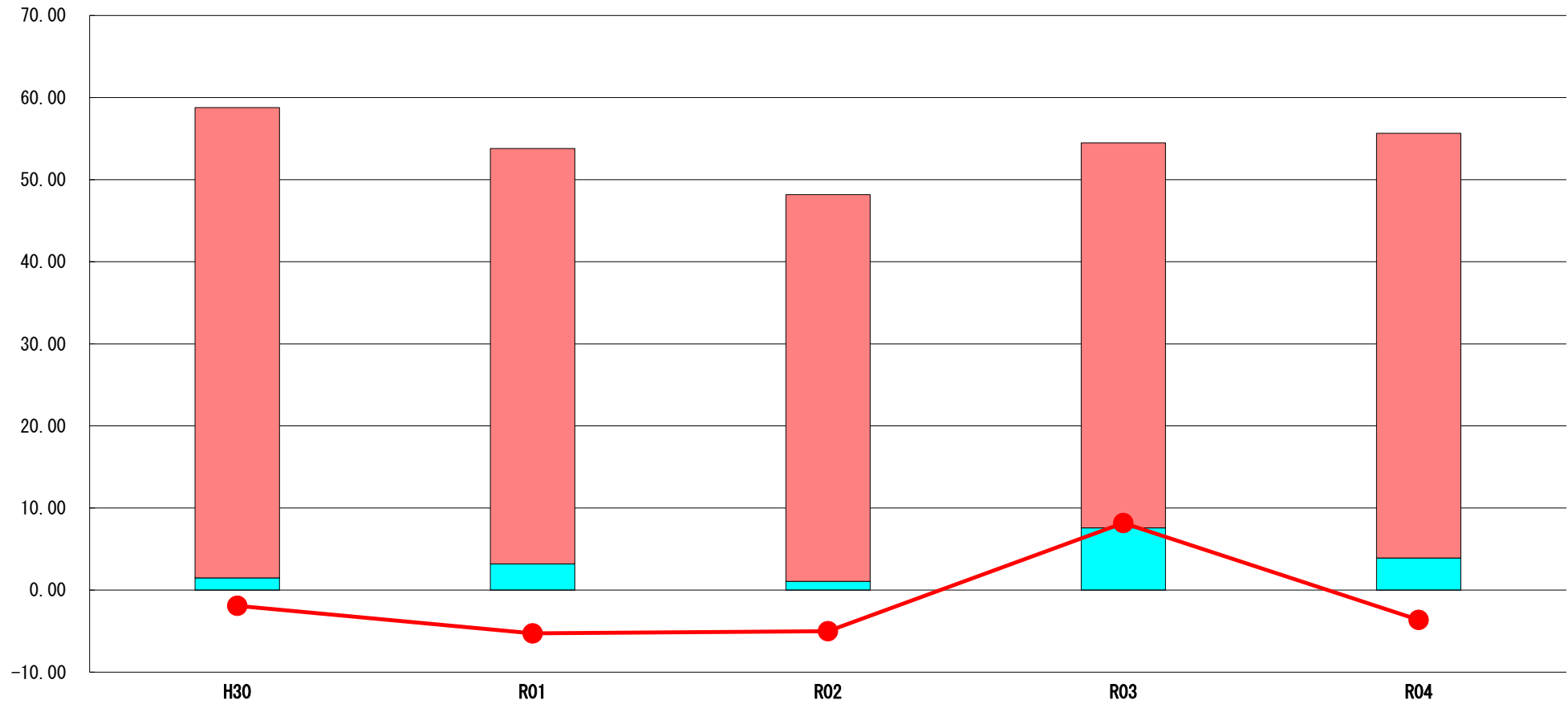
- ・総務費は、ふるさと納税の増収に伴い、ふるさと応援寄附金基金積立金やふるさと納税寄附礼品が増加したことを主たる要因として、類似団体平均値を上回っている。
- ・商工費は、地方創生臨時交付金を活用したクーポン券の換金事務委託等により増加し、類似団体平均値を上回っている。
- ・諸支出金は、土地開発基金保有財産の一般会計での買戻しにより増加し、類似団体平均値を上回っている。

(7) 実質収支比率等に係る経年分析（市町村）

令和4年度

佐賀県吉野ヶ里町

標準財政規模比（％）



標準財政規模比（％）

区分	年度	H30	R01	R02	R03	R04
財政調整基金残高		57.29	50.61	47.11	46.91	51.75
実質収支額		1.49	3.18	1.07	7.57	3.90
実質単年度収支		▲ 1.92	▲ 5.27	▲ 5.01	8.17	▲ 3.64

分析欄

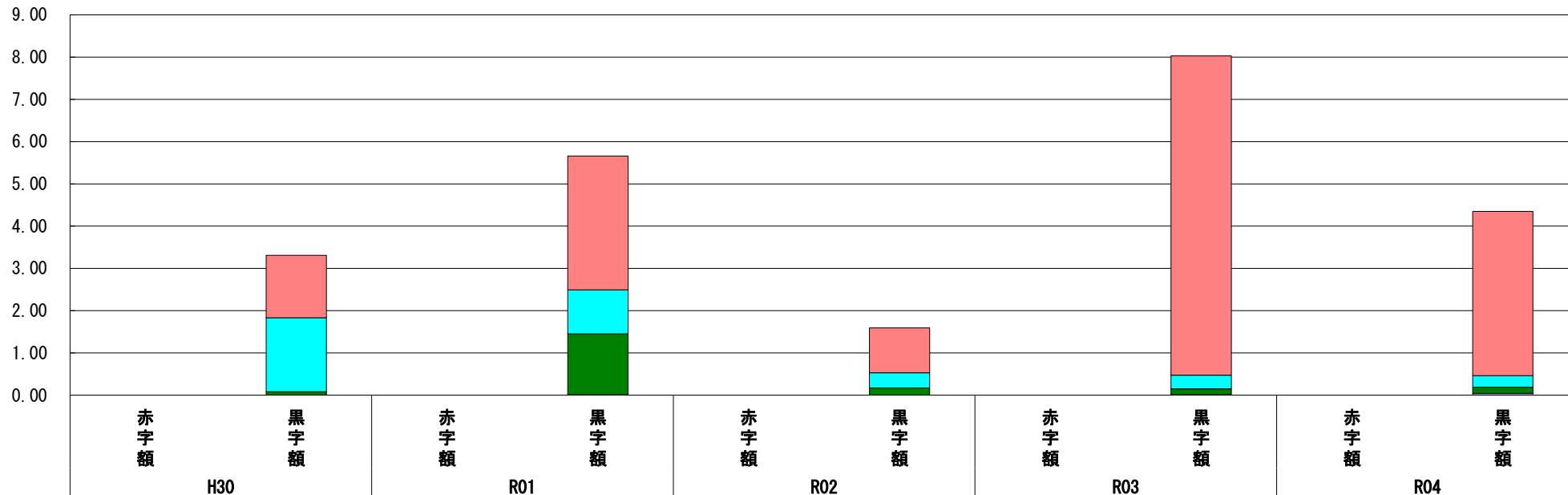
本年度は財政調整基金を取り崩すことなく、基金残高も昨年度から202,231千円増の2,605,203千円となった。標準財政規模に対する財政調整基金残高比率は4.84ポイント上昇している。実質収支比率は昨年度から3.67ポイント低下して3.90%、実質収支は196,170千円。今後も町税等適切な財源の確保を図り、引き続き健全な行財政運営に努める。

(8) 連結実質赤字比率に係る赤字・黒字の構成分析（市町村）

令和4年度

佐賀県吉野ヶ里町

標準財政規模比（%）



標準財政規模比（%）

会計	年度	H30	R01	R02	R03	R04
一般会計		1.48	3.17	1.06	7.56	3.89
国民健康保険特別会計		1.75	1.04	0.36	0.32	0.27
下水道特別会計		0.08	1.44	0.17	0.14	0.15
後期高齢者医療特別会計		0.00	0.01	0.00	0.00	0.04
簡易水道特別会計		0.00	0.00	0.00	0.01	0.00
工業用地造成事業特別会計		0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
その他会計（赤字）		-	-	-	-	-
その他会計（黒字）		-	-	-	-	-

分析欄

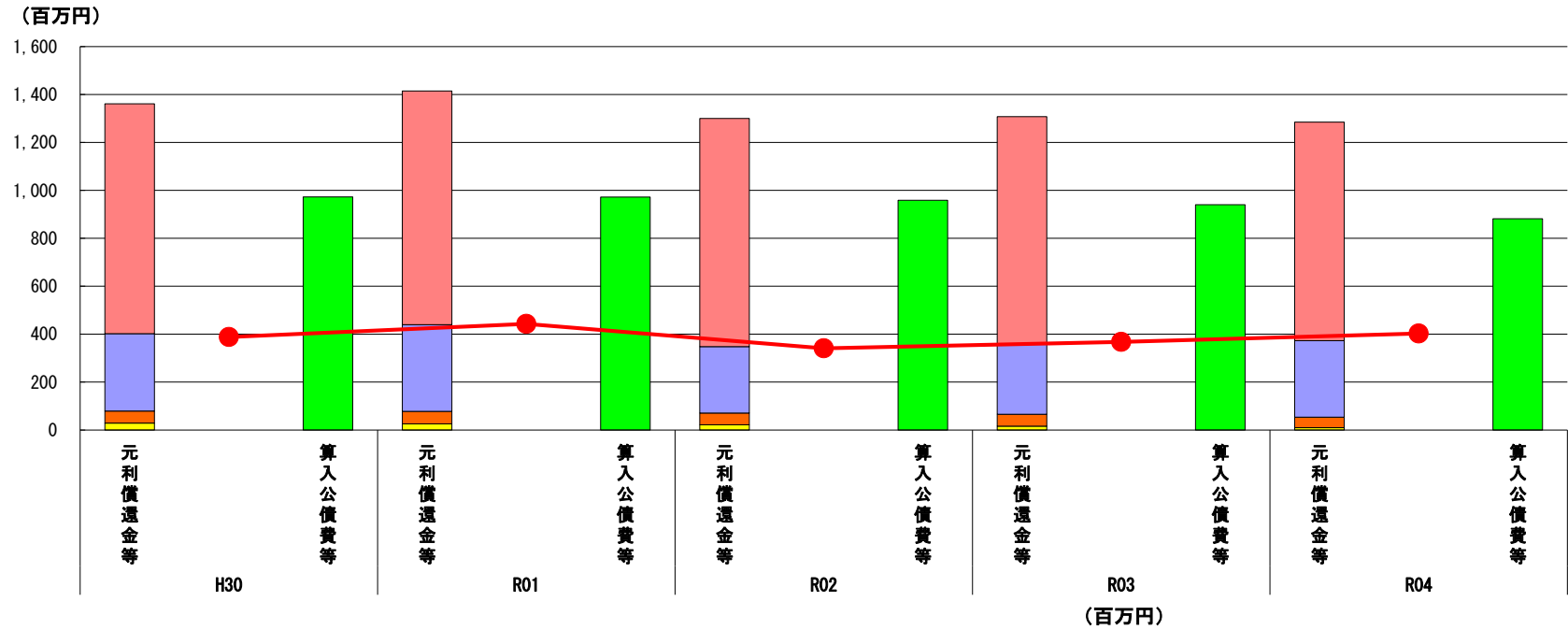
全ての会計において実質赤字額及び資金不足額が発生していないため、連結実質赤字比率は算出されていない。
 今後も、対象会計それぞれについて赤字決算とならないよう、引き続き健全な財政運営に努める。

※令和5年度中に市町村合併した団体で、合併前の団体ごとの決算に基づく連結実質赤字比率を算出していない団体については、グラフを表記しない。

(9) 実質公債費比率（分子）の構造（市町村）

令和4年度

佐賀県吉野ヶ里町



分子の構造		年度	H30	R01	R02	R03	R04
元利償還金等(A)	元利償還金		959	975	952	947	912
	減債基金積立不足算定額※2		-	-	-	-	-
	満期一括償還地方債に係る年度割相当額		-	-	-	-	-
	公営企業債の元利償還金に対する繰入金		323	362	277	295	319
	組合等が起こした地方債の元利償還金に対する負担金等		50	52	49	50	44
	債務負担行為に基づく支出額		29	26	22	16	10
	一時借入金の利子		-	-	-	-	-
算入公債費等(B)	算入公債費等		973	972	959	940	882
(A) - (B)	実質公債費比率の分子		388	443	341	368	403

分析欄

公営企業債の元利償還金に対する繰入金（下水道特別会計）が増加したものの、元利償還金等全体では前年度に比べ23百万円の減となった。

算入公債費等のうち普通交付税に算入された元利償還金は、町営住宅使用料の減収により特定財源の額が減少し、算入公債費等は58百万円の減となっている。

引き続き交付税措置のある有利な起債を活用するとともに、町営住宅の入居者増及び維持管理費の抑制に努め住宅使用料の公債費充当率の引き上げを図る。

※1 令和5年度中に市町村合併した団体で、合併前の団体ごとの決算に基づく実質公債費比率を算出していない団体については、グラフを表記しない。

※2 減債基金積立不足算定額=(C) × (1 - (D)/(E))

(参考)

減債基金積立状況等(注)		年度	H30	R01	R02	R03	R04
減債基金積立状況等(注)	満期一括償還地方債に係る実質償還額又は理論償還額のいずれか少ない額(C)						
	前年度末減債基金残高(D)						
	前年度末減債基金積立相当額(E)						

分析欄

満期一括償還地方債は発行していない。

(注) 減債基金のうち、実質公債費比率の算定に用いる満期一括償還地方債の償還の財源に係るもののみを記入。

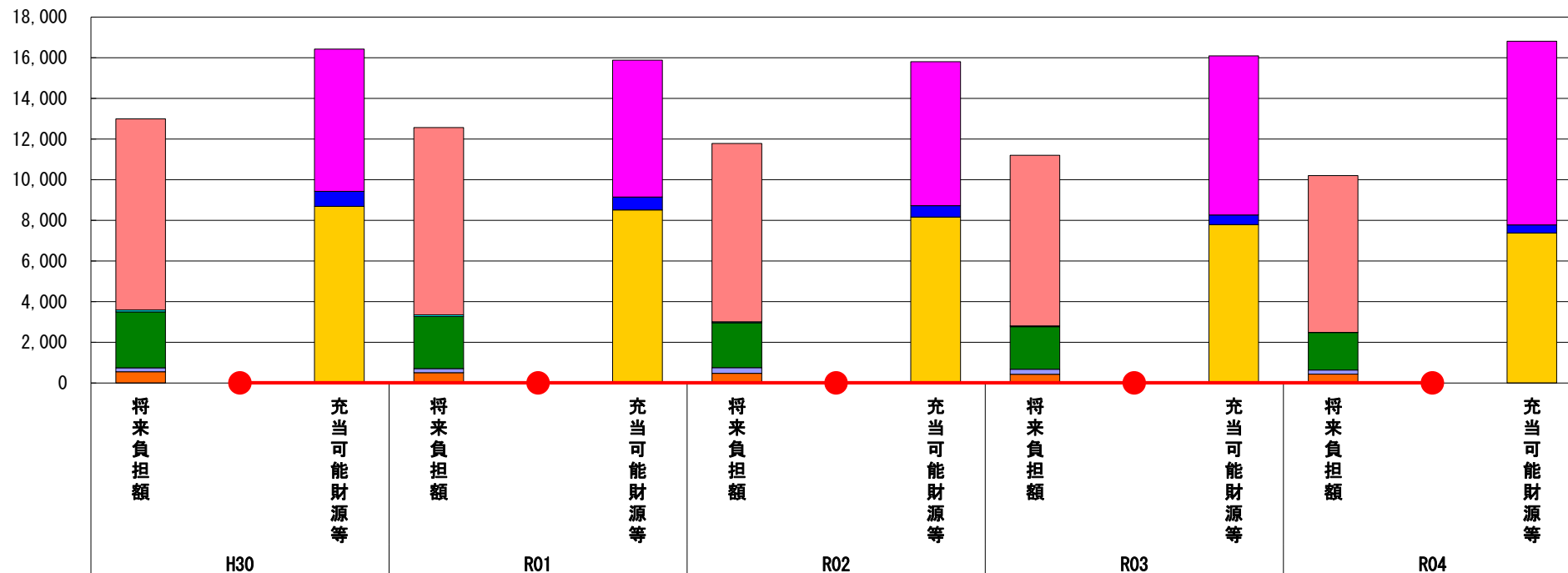
減債基金積立金の年度を超えた一般会計又は特別会計への貸付額は控除して記入。

(10) 将来負担比率（分子）の構造（市町村）

令和4年度

佐賀県吉野ヶ里町

(百万円)



(百万円)

分子の構造		年度	H30	R01	R02	R03	R04
将来負担額 (A)	一般会計等に係る地方債の現在高		9,396	9,218	8,769	8,399	7,712
	債務負担行為に基づく支出予定額		98	71	49	32	7
	公営企業債等繰入見込額		2,749	2,569	2,211	2,097	1,839
	組合等負担等見込額		198	202	280	246	206
	退職手当負担見込額		551	507	475	431	437
	設立法人等の負債額等負担見込額		-	-	-	-	-
	うち、健全化法施行規則附則第三条に係る負担見込額		-	-	-	-	-
	連結実質赤字額		-	-	-	-	-
充当可能財源等 (B)	組合等連結実質赤字額負担見込額		-	-	-	-	-
	充当可能基金		7,000	6,730	7,079	7,825	9,040
	充当可能特定歳入		735	640	561	473	392
	基準財政需要額算入見込額		8,695	8,513	8,165	7,795	7,383
(A) - (B)	将来負担比率の分子		▲ 3,437	▲ 3,316	▲ 4,021	▲ 4,887	▲ 6,616

分析欄

将来負担額のうち、一般会計の地方債現在高は定期償還額が新規発行額を上回ったため減少。下水道特別会計における地方債現在高や組合負担等見込み額等も減少したこともあり、退職手当負担見込額の微増があったものの全体的な将来負担額は前年度に比べ1,004百万円の減となった。

将来負担額から控除する充当可能財源等のうち、基準財政需要額算入見込額は事業費補正算入額の減などにより減少。充当可能特定歳入は住宅使用料の減収により減少。一方で、ふるさと応援寄附金基金等の基金残高の増により、充当可能財源等全体では前年度に比べて722百万円の増となっている。

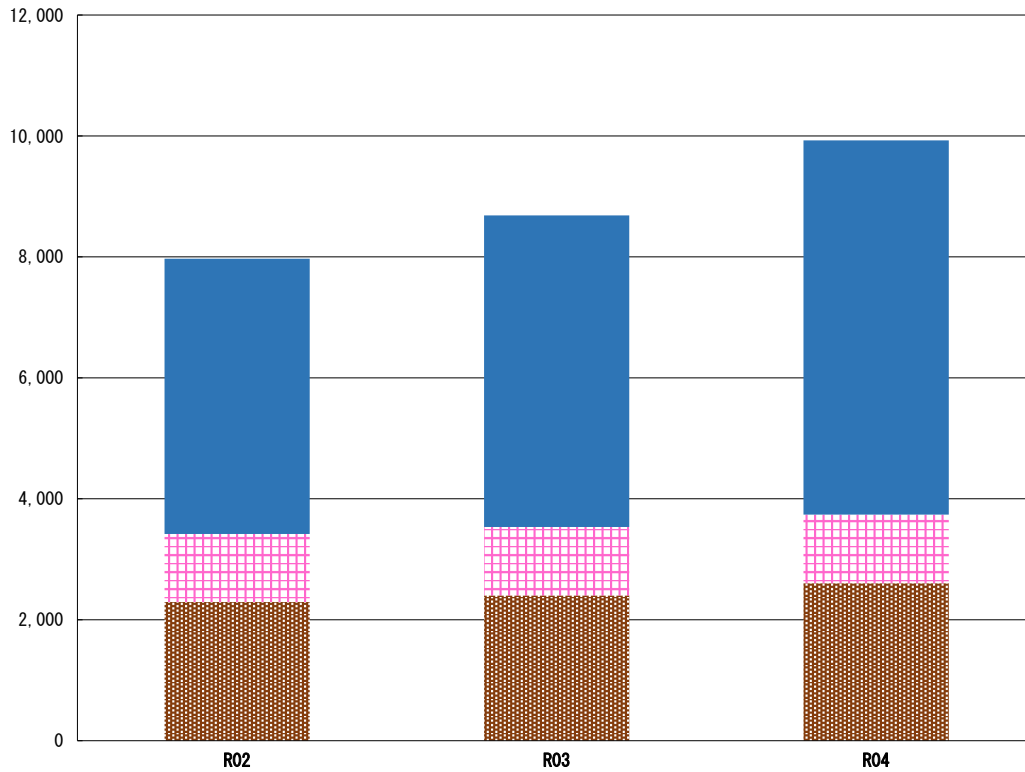
令和4年度も将来負担額を充当可能財源額が上回ったため分子はマイナスとなっている。

今後も、持続可能な財政運営のため歳出全般にわたって行財政改革に取組み、財政の健全化に努める。

※令和5年度中に市町村合併した団体で、合併前の団体ごとの決算に基づく将来負担比率を算出していない団体については、グラフを表記しない。

(11) 基金残高（東日本大震災分を含む）に係る経年分析（市町村）

(百万円)



(百万円)

区分	年度	R02	R03	R04
財政調整基金		2,293	2,403	2,605
減債基金		1,126	1,130	1,133
その他特定目的基金		4,550	5,154	6,188
	(当該欄に積立額が多い上位5基金の基金名を入力して下さい(R04年度末現在))			
	(当該欄に積立額が多い上位5基金の基金名を入力して下さい(R04年度末現在))			
	(当該欄に積立額が多い上位5基金の基金名を入力して下さい(R04年度末現在))			
	(当該欄に積立額が多い上位5基金の基金名を入力して下さい(R04年度末現在))			
	(当該欄に積立額が多い上位5基金の基金名を入力して下さい(R04年度末現在))			
	基金残高合計	7,969	8,687	9,926

令和4年度

佐賀県吉野ヶ里町

基金全体

(増減理由)

ふれあい交流施設整備事業や定住奨励事業、学校給食費補助等により「ふるさと応援寄附金基金」を100,080千円取り崩し、温浴ボイラー設備機器改修工事のため「東脊振温浴施設維持整備基金」を19,000千円取り崩した。

積立は、ふるさと応援寄附金の増収により返礼品等事業に要した経費を除いた1,074,605千円を「ふるさと応援寄附金基金」に積み立てたほか、決算剰余金等により「財政調整基金」に202,231千円を積み立てた。

取り崩し総額147,873千円に対し、1,387,093千円を積み立てたことにより、基金全体としては1,239,220千円の増となった。

(今後の方針)

今後の新庁舎建設事業や町の中心地づくり事業といった大規模事業にあわせて、基金の使途の明確化を図るべく既存の基金の整理を検討している。

財政調整基金

(増減理由)

基金運用利子及び決算剰余金等により202,231千円を積み立てた。

(今後の方針)

今後は町単独事業の増加や特定目的基金への積立により、財政調整基金の残高は減少していく見込み。

減債基金

(増減理由)

基金運用利子3,581千円を積み立てたことにより増加。

(今後の方針)

合併特例債及び下水道事業債の償還財源として引き続き積立を行っていく。

その他特定目的基金

(基金の使途)

公用及び公共用施設建設基金：公用及び公共用施設の建設事業費
 合併振興基金：本町における町民の連帯強化及び地域振興を図るための事業
 東脊振温浴施設維持整備基金：東脊振温浴施設の維持整備に要する事業

(増減理由)

ふるさと応援寄附金基金：ふるさと応援寄附金から返礼品等事業に要した経費を除いた1,074,605千円を積み立てたことにより増加。
 公用及び公共用施設建設基金：基金運用利子等4,518千円を積み立てたことにより増加。

(今後の方針)

公用及び公共用施設建設基金：今後の個別施設計画に基づく公共施設等の改修事業及びまちの中心地づくり事業等の財源として積極的に積み立てる。

合併振興基金：合併特例債に代わる振興事業費の財源として、合併による特例措置の適用期限終了後は減少していく見込み。

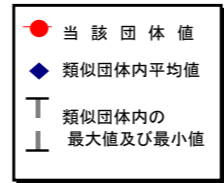
東脊振温浴施設維持整備基金：長寿命化に伴う大規模改修及びリニューアル経費として、毎年、一定額を確保していく予定。

(12)市町村公会計指標分析／財政指標組合せ分析表

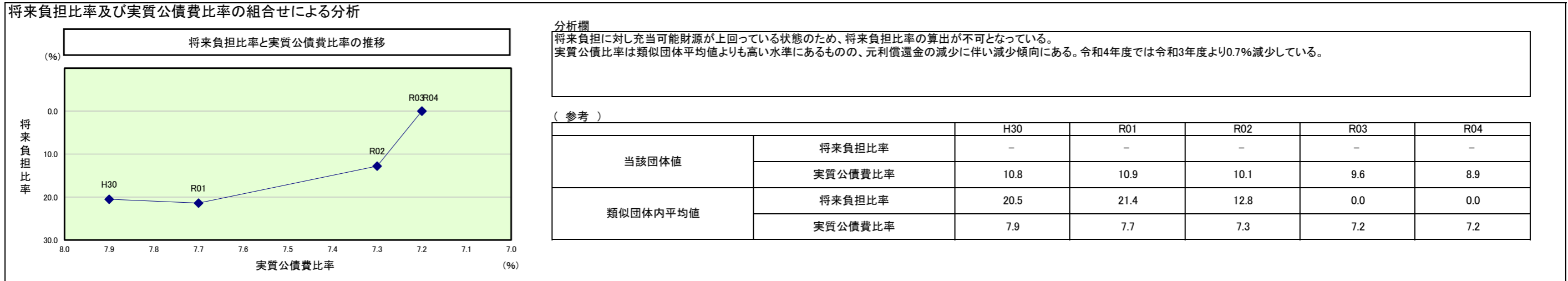
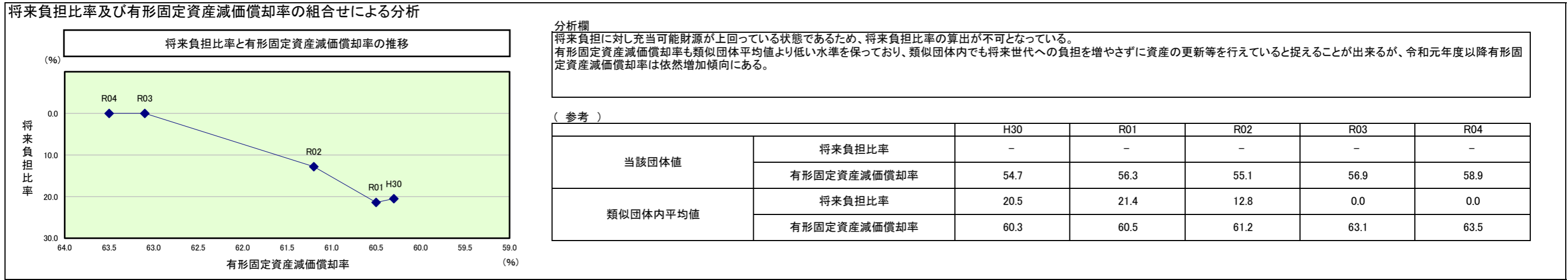
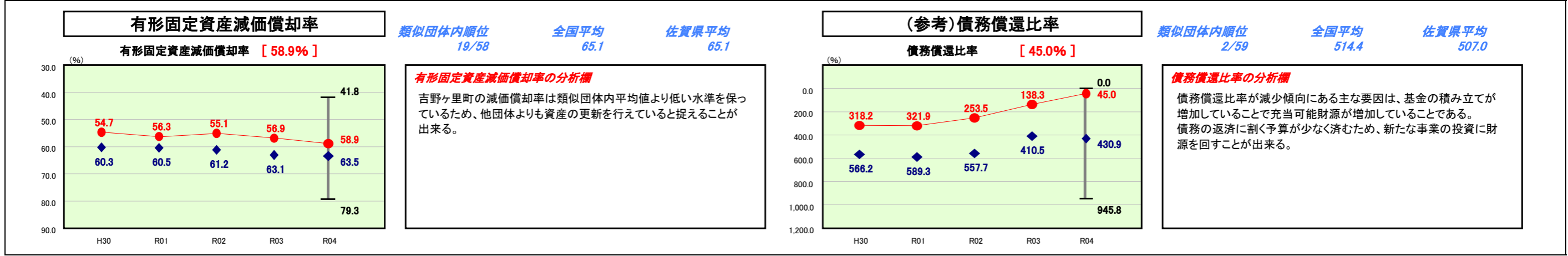
令和4年度

佐賀県吉野ヶ里町

人口	16,228人 (R5.1.1現在)	実質赤字比率	-%
うち日本人	16,030人 (R5.1.1現在)	連結実質赤字比率	-%
面積	43.99 km ²	実質公債費比率	8.9%
歳入総額	10,530,965千円	将来負担比率	-%
歳出総額	10,203,119千円	市町村類型	H30 IV-2 R01 IV-2 R02 IV-2
実質収支	196,170千円	(年度毎)	R03 IV-2 R04 IV-2
標準財政規模	5,034,669千円		
地方債現在高	7,711,868千円		



※ 市町村類型とは、人口および産業構造等により全国の市町村を35のグループに分類したものである。当該団体と同じグループに属する団体を類似団体と言う。
 ※ 人口については、各調査対象年度の1月1日現在の住民基本台帳に記載されている人口に基づいている。
 ※ 類似団体内順位、全国平均、各都道府県平均は、令和4年度決算の状況である。また類似団体が存在しない場合、類似団体内順位を表示しない。
 ※ 令和5年度中に市町村合併した団体で、合併前の団体毎の決算に基づく健全化判断比率等を算出していない団体については、債務償還比率、実質公債費比率、将来負担比率のグラフを表記しない。
 ※ 類似団体関連の数値は、各年度の調査で回答のあった団体に関するもの。

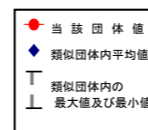


(13)-1市町村施設類型別ストック情報分析表①

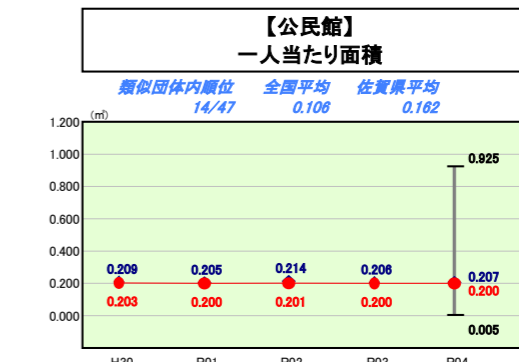
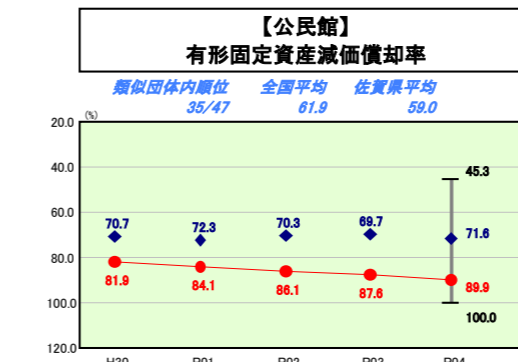
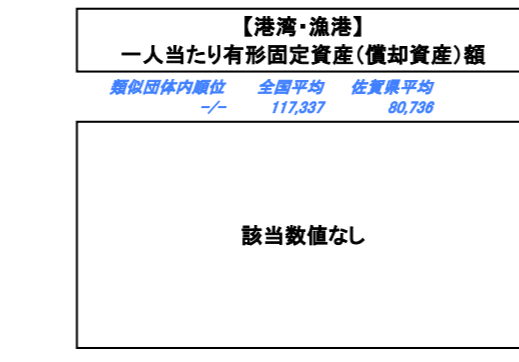
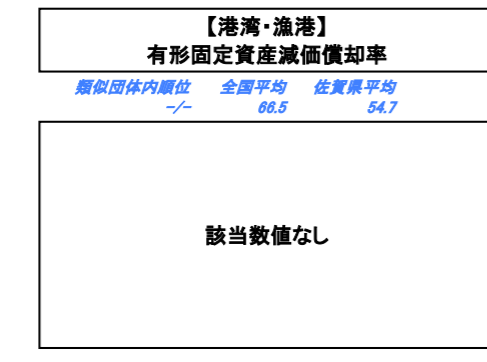
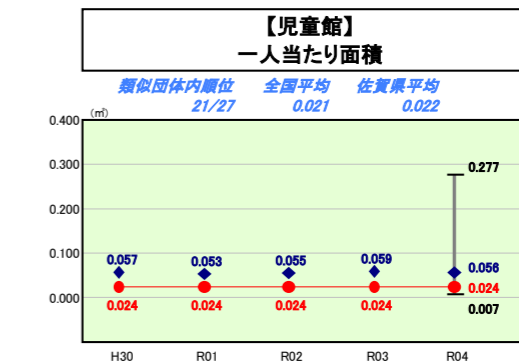
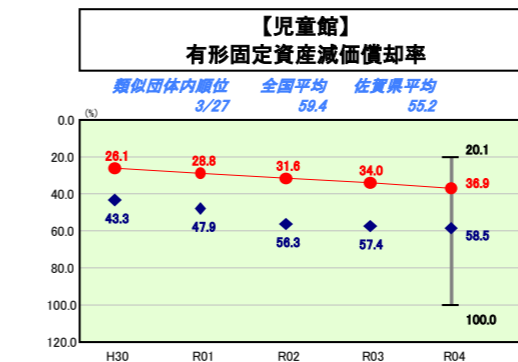
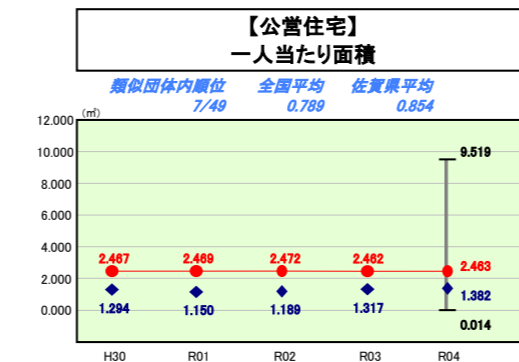
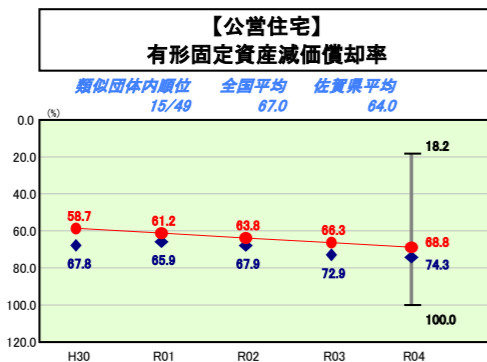
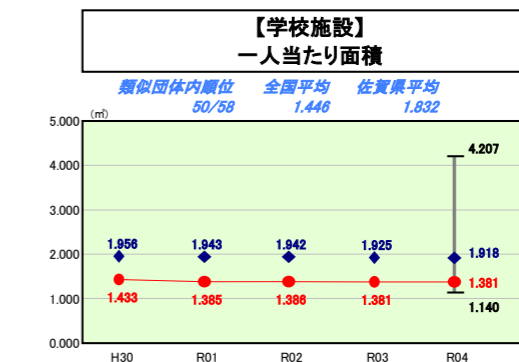
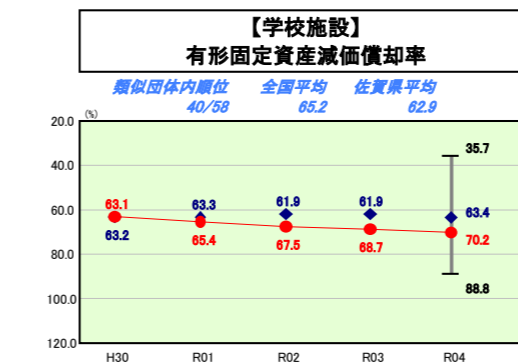
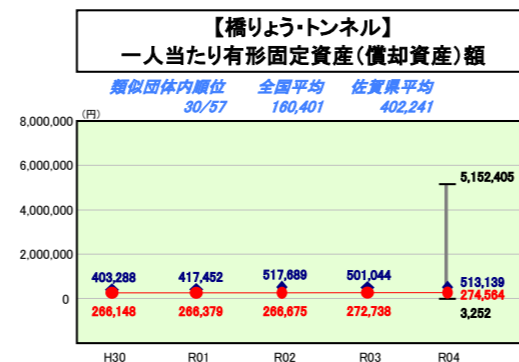
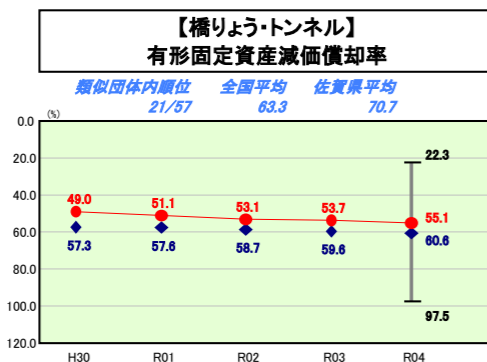
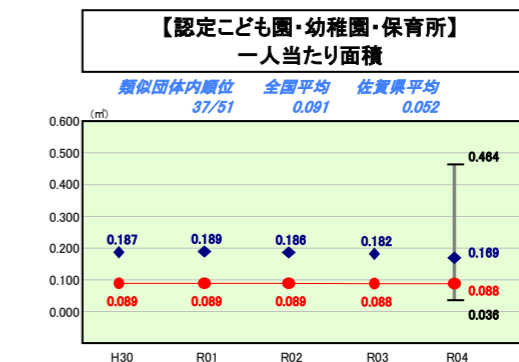
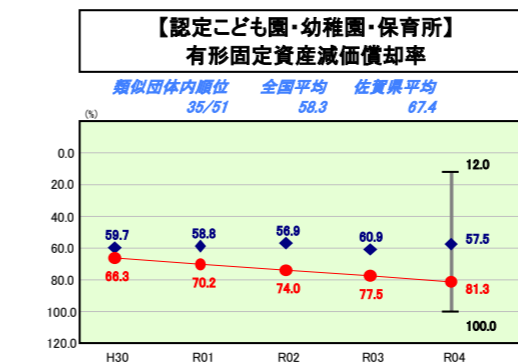
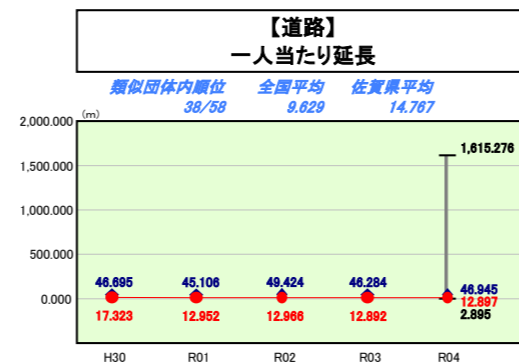
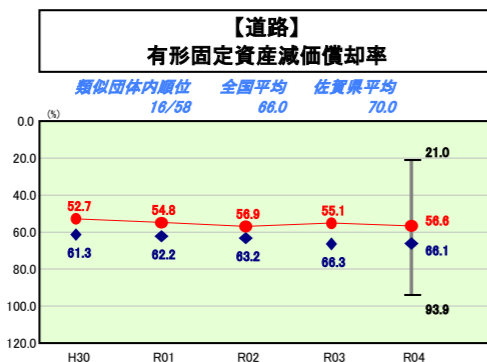
令和4年度

佐賀県吉野ヶ里町

人口	16,228人 (R5.1.1現在)	実質赤字比率	- %
うち日本人	16,030人 (R5.1.1現在)	連結実質赤字比率	- %
面積	43.99 km ²	実質公債費比率	8.9 %
歳入総額	10,530,965千円	将来負担比率	- %
歳出総額	10,203,119千円	市町村類型	H30 IV-2 R01 IV-2 R02 IV-2
実質収支	196,170千円	(年度毎)	R03 IV-2 R04 IV-2
標準財政規模	5,034,669千円		
地方債現在高	7,711,868千円		



※ 市町村類型とは、人口および産業構造等により全国の市町村を35のグループに分類したものである。当該団体と同じグループに属する団体を類似団体と言う。
 ※ 人口については、各調査対象年度の1月1日現在の住民基本台帳に登録されている人口に基づいている。
 ※ 類似団体内順位、全国平均、各都道府県平均は、令和4年度決算の状況である。また類似団体が存在しない場合、類似団体内順位を表示しない。
 ※ 類似団体関連の数は、各年度の調査で回答があった団体に関するもの。



施設情報の分析欄

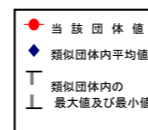
類似団体内平均値と比較して有形固定資産減価償却率が高くなっているのは、【認定こども園・幼稚園・保育所】、【学校施設】、【公民館】である。それぞれの有形固定資産減価償却率は81.3%、70.2%、89.9%となっており、いずれも老朽化が進行している。町立幼稚園・保育所の2施設の内、保育園は昭和47年に建築されており、老朽化が著しく、施設の維持管理・更新の検討が必要である。また【認定こども園・幼稚園・保育所】の一人当たり面積が類似団体内平均値の半分程度となっていることから、施設保有量についても検討が必要がある。公民館の2施設はどちらも昭和50年代に建築されており、緊急時には避難所となる施設でもあるため、施設の維持管理・更新の検討を行う必要がある。

(13)-2市町村施設類型別ストック情報分析表②

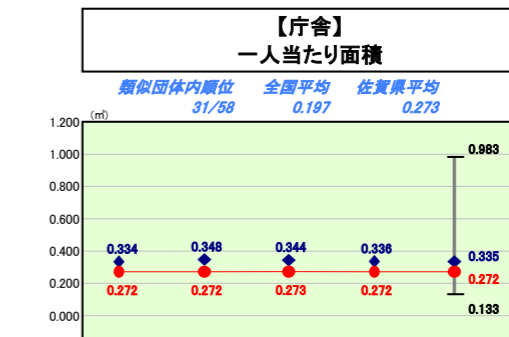
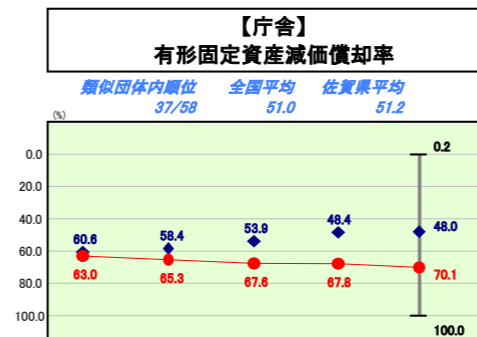
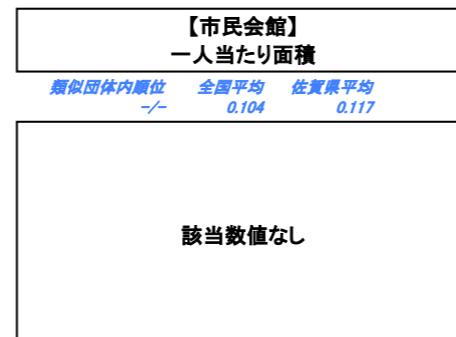
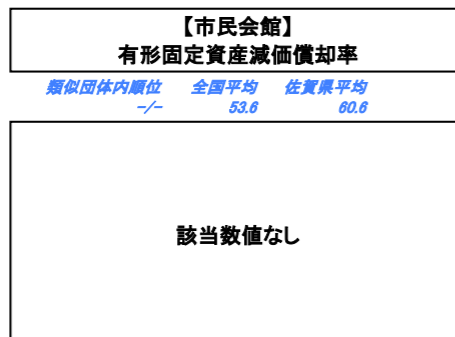
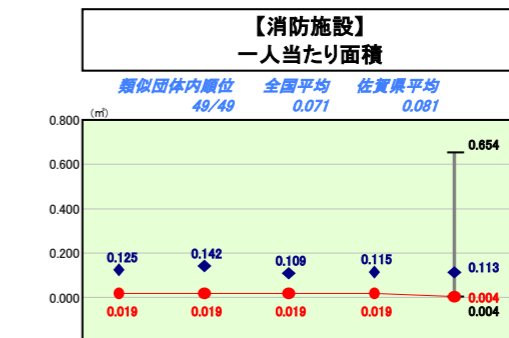
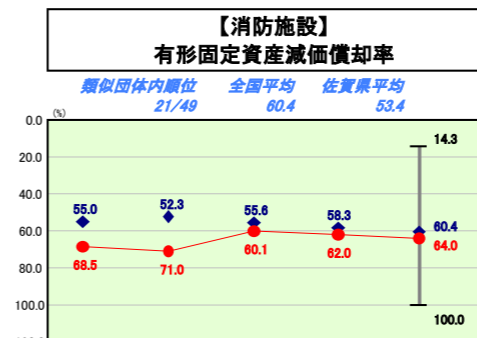
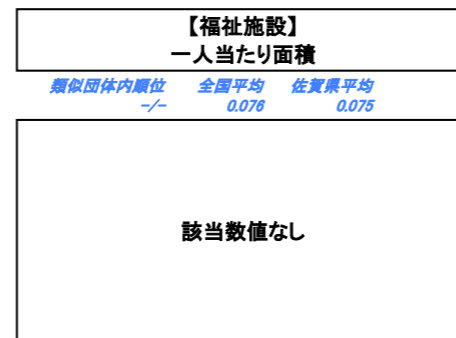
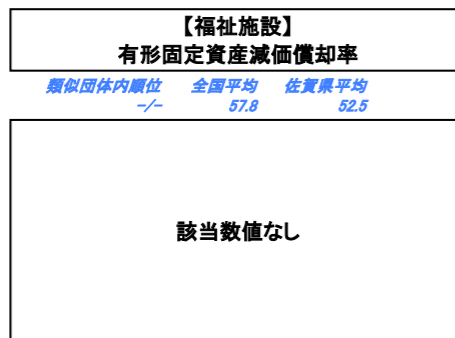
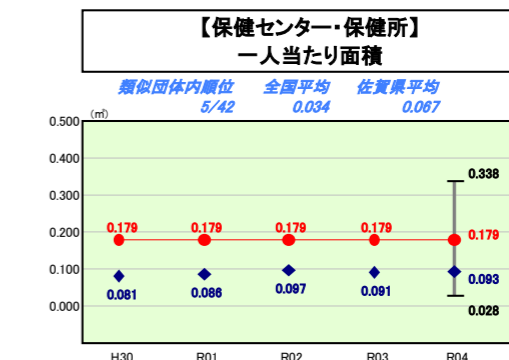
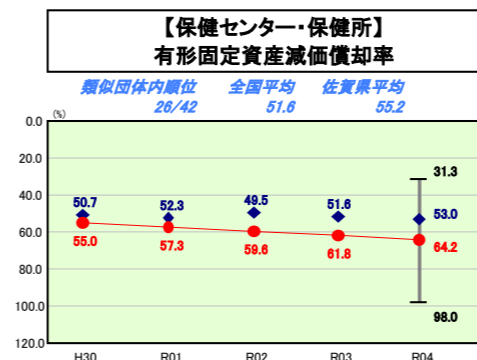
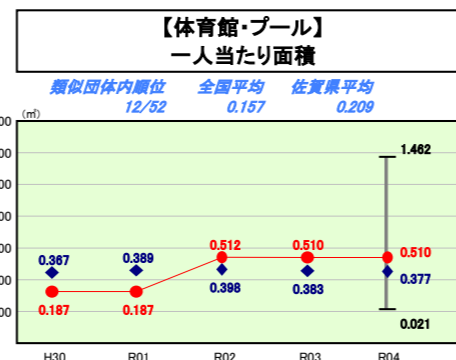
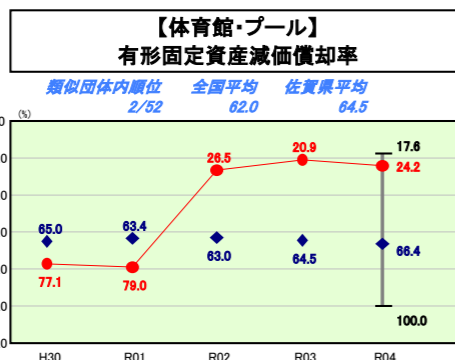
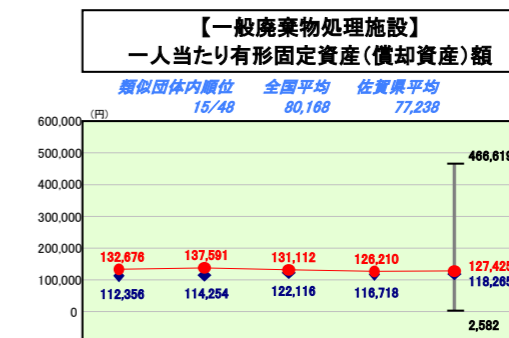
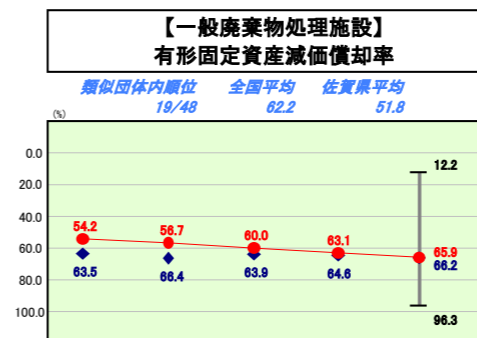
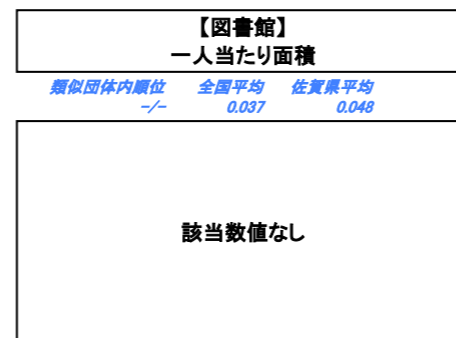
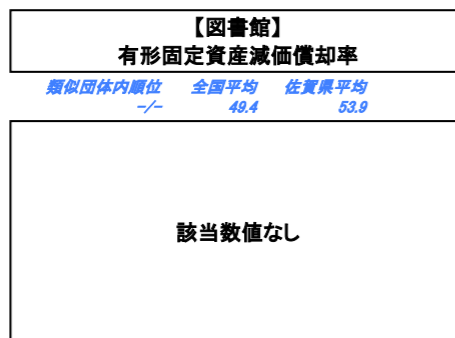
令和4年度

佐賀県吉野ヶ里町

人口	16,228人 (R5.1.1現在)	実質赤字比率	-%
うち日本人	16,030人 (R5.1.1現在)	連結実質赤字比率	-%
面積	43.99km ²	実質公債費比率	8.9%
歳入総額	10,530,965千円	将来負担比率	-%
歳出総額	10,203,119千円	市町村類型	H30 IV-2 R01 IV-2 R02 IV-2
実質収支	196,170千円	(年度毎)	R03 IV-2 R04 IV-2
標準財政規模	5,034,669千円		
地方債現在高	7,711,868千円		



※ 市町村類型とは、人口および産業構造等により全国の市町村を35のグループに分類したものである。当該団体と同じグループに属する団体を類似団体と言う。
 ※ 人口については、各調査対象年度の1月1日現在の住民基本台帳に登録されている人口に基づいている。
 ※ 類似団体順位、全国平均、各都道府県平均は、令和4年度決算の状況である。また類似団体が存在しない場合、類似団体順位を表示しない。
 ※ 類似団体関連の数値は、各年度の調査で回答があった団体に関するもの。



施設情報の分析値
 類似団体平均値と比較して有形固定資産減価償却率が高くなっているのは、【保健センター・保健所】、【消防施設】、【庁舎】である。それぞれの有形固定資産減価償却率は64.2%、64.0%、70.1%となっており、特に庁舎は老朽化が進行している。庁舎の有形固定資産減価償却率は70%を超えており、老朽化が進んでいるといえる。現在、2つの庁舎を統合した新庁舎建築の計画を進めており、今後は有形固定資産減価償却率が減少する予定である。
 体育館・プールの有形固定資産減価償却率が令和2年度に大幅に減少しているのは、吉野ヶ里文化体育館の建設が行われたためである。令和3年度も吉野ヶ里文化体育館の外構工事を行ったため有形固定資産減価償却率は減少したが、令和4年からは増加に転じた。ただし、プールについては有形固定資産減価償却率が90%を超えているため、住民のニーズによって施設の更新・廃止等の検討が必要になる。保健センターの一人当たり面積は類似団体内平均値の約1.9倍となっている。一方で消防施設の一人当たり面積は類似団体内平均値の約28分の1しかない。今後の維持管理・更新の際に施設の保有量が適切であるかの検討も行っていく必要がある。